

青森県経済統計報告

平成 30 年 2 月 6 日

企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 30 年 1 月 1 日現在)..... 1

県人口 1,276,120 人 (対前月 966 人減少)			
自然動態	831 人減少	(出生者数 674 人、死亡者数 1,505 人)	
社会動態	135 人減少	(転入者数 943 人、転出者数 1,078 人)	

2 本県の経済動向 (平成 29 年 11 月・12 月の経済指標を中心として)

(1) 経済概況

本県経済は、緩やかに回復している。
景況感(青森県景気ウォッチャー調査結果)をみると、現状判断DIは51.3、先行き判断DIは52.8といずれも50を上回った。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・平成 29 年 11 月の**青森県鉱工業生産指数**(平成 22 年=100)は、季節調整指数が 109.7 で、前月比 0.9%の低下となり、3 カ月連続で前月を下回った。また、原指数は 114.9 で、前年同月比 8.4%の低下となり、4 カ月ぶりに前年同月を下回った。 ... 2
- (2-2) 雇用労働 ・平成 29 年 11 月の**定期給与**は 228,033 円で前年同月比 3.7%増となった。**総実労働時間**は 158.6 時間で前年同月比 2.2%増、**所定外労働時間**は 13.4 時間で前年同月比 11.1%増となった。
・平成 29 年 12 月の**有効求人倍率**(季節調整値)は 1.33 倍で、前月を 0.06 ポイント上回った。 ... 3
- (2-3) 物 価 平成 29 年 12 月の**青森市消費者物価指数**(平成 27 年=100)は、総合指数が 101.3 となり、前月比 0.3%の上昇、前年同月比 1.1%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は 101.6 となり、前月比 0.1%の下落、前年同月比 0.6%の上昇となった。 ... 5
- (2-4) 個人消費 ・平成 29 年 12 月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが 181 億円で前年同月比 1.9%増となり、7 カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比 0.7%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。
・平成 29 年 12 月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出数**は 2,805 台で、前年同月比 1.2%増となり、2 カ月ぶりに前年同月を上回った。
・平成 29 年 12 月の**観光入込客数**は、主な観光施設が 575 千人で前年同月比 0.1%減となり、2 カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は 112 千人で前年同月比 7.3%増となり、2 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 6
- (2-5) 建 設 ・平成 29 年 12 月の**新設住宅着工戸数**は 543 戸で、前年同月比 1.7%増となり、3 カ月ぶりに前年同月を上回った。
・平成 29 年 12 月の**公共工事請負額**は 53 億 100 万円で前年同月比 11.3%増となり、3 カ月連続で前年同月を上回った。 ... 7
- (2-6) 企業倒産 平成 29 年 12 月の**企業倒産**は、件数は 8 件で前年同月比 300.0%増となった。負債総額は 4 億 7,200 万円で前年同月比 21.3%増となった。 ... 8

(3) 景気動向指数CI(平成 29 年 10 月分) 9

先行指数	142.8	(前月を 8.1 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した)
一致指数	178.8	(前月を 9.5 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した)
遅行指数	120.6	(前月を 0.6 ポイント上回り、2 カ月連続で上昇した)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査(平成 30 年 1 月期) 10

3 カ月前と比べた景気の現状判断DI	51.3	(前期比 4.8 ポイント増、2 期ぶりで 50 を上回る)
3 カ月後の景気の先行き判断DI	52.8	(前期比 1.0 ポイント増、4 期連続で 50 を上回る)

【概況】

平成30年1月1日現在の本県推計人口は、1,276,120人で、前月に比べ966人の減少となった。

○自然動態

出生者数が674人、死亡者数が1,505人で、831人の減少となった。

○社会動態

転入者数が943人、転出者数が1,078人で、135人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総計	男	女	対前月 増減率	増減数	自然増減数			社会増減数		
						出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数	
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
29. 1. 1	1,291,206	606,639	684,567	-0.078%	-1,006	-819	666	1,485	-187	920	1,107
29. 2. 1	1,290,008	606,029	683,979	-0.093%	-1,198	-1,115	704	1,819	-83	978	1,061
29. 3. 1	1,288,791	605,418	683,373	-0.094%	-1,217	-857	621	1,478	-360	999	1,359
29. 4. 1	1,282,545	602,241	680,304	-0.485%	-6,246	-900	665	1,565	-5,346	3,993	9,339
29. 5. 1	1,282,136	602,187	679,949	-0.032%	-409	-803	624	1,427	394	3,420	3,026
29. 6. 1	1,281,461	601,833	679,628	-0.053%	-675	-752	738	1,490	77	1,366	1,289
29. 7. 1	1,280,651	601,351	679,300	-0.063%	-810	-674	643	1,317	-136	1,193	1,329
29. 8. 1	1,279,829	601,046	678,783	-0.064%	-822	-672	651	1,323	-150	1,699	1,849
29. 9. 1	1,278,997	600,700	678,297	-0.065%	-832	-742	669	1,411	-90	1,685	1,775
29.10.1	1,278,581	600,560	678,021	-0.033%	-416	-565	721	1,286	149	1,578	1,429
29.11.1	1,277,949	600,252	677,697	-0.049%	-632	-790	712	1,502	158	1,455	1,297
29.12.1	1,277,086	599,949	677,137	-0.068%	-863	-793	649	1,442	-70	974	1,044
30. 1. 1	1,276,120	599,503	676,617	-0.076%	-966	-831	674	1,505	-135	943	1,078

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		H19.12	20.12	21.12	22.12	23.12	24.12	25.12	26.12	27.12	28.12	29.12
自然動態	出生者数	769	813	781	742	732	742	738	680	724	666	674
	死亡者数	1,303	1,349	1,318	1,317	1,458	1,549	1,494	1,525	1,506	1,485	1,505
	自然増減数	-534	-536	-537	-575	-726	-807	-756	-845	-782	-819	-831
社会動態	県外からの 転入者数	1,162	1,265	1,163	1,151	1,035	959	919	965	1,052	920	943
	県外への 転出者数	1,412	1,423	1,192	1,163	1,091	1,118	1,237	1,152	1,180	1,107	1,078
	社会増減数	-250	-158	-29	-12	-56	-159	-318	-187	-128	-187	-135
増減数計		-784	-694	-566	-587	-782	-966	-1,074	-1,032	-910	-1,006	-966

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

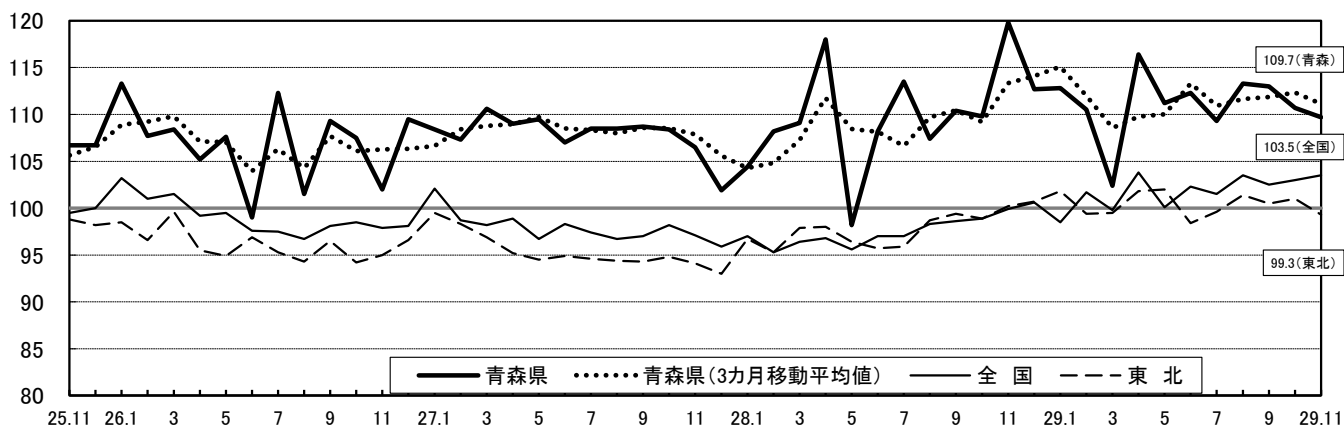
(2-1) 生産動向

平成29年11月の青森県鉱工業生産指数(平成22年=100)は、季節調整済指数が109.7で、前月比0.9%の低下となり、3カ月連続で前月を下回った。また、原指数は114.9で、前年同月比8.4%の低下となり、4カ月ぶりに前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、業務用機械工業、化学工業、電気機械工業などが上昇に寄与した一方、金属製品工業、輸送機械工業、生産用機械工業などが低下し、鉱工業全体では0.9%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成22年=100)

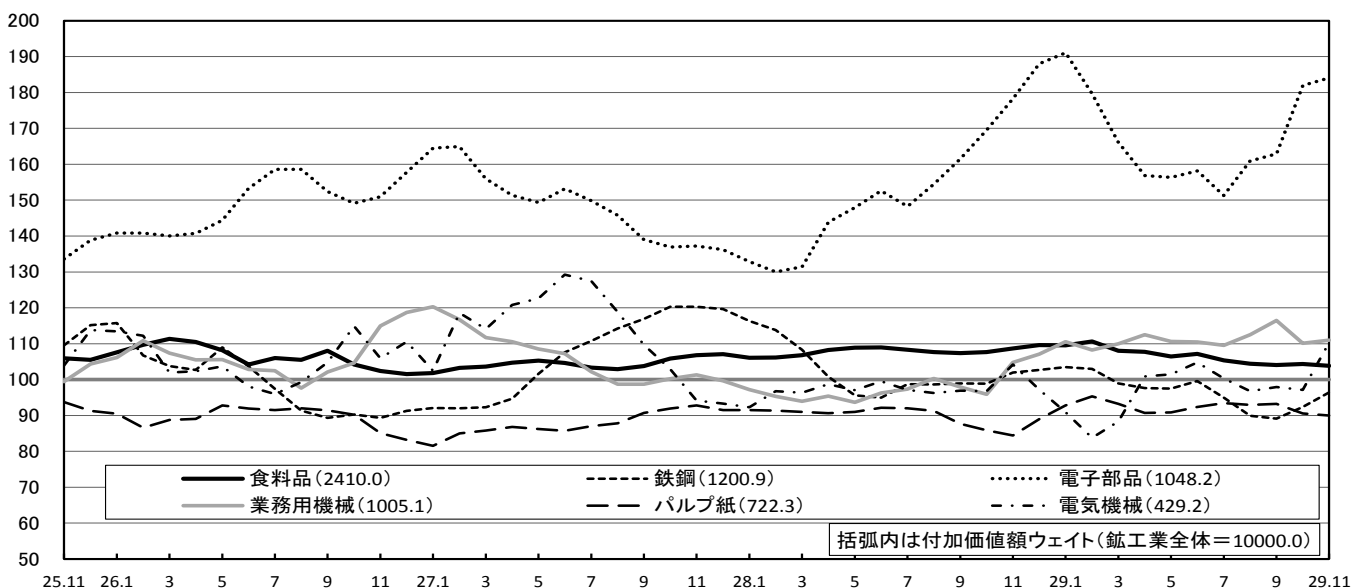


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -0.9%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
業務用機械工業	30.3	412.3	金属製品工業	-38.7	-364.7
化学工業	363.6	330.3	輸送機械工業	-39.1	-281.1
電気機械工業	22.3	137.6	生産用機械工業	-35.6	-263.4
パルプ・紙・紙加工品工業	7.0	62.6	電子部品・デバイス工業	-2.8	-83.3
鉄鋼業	3.5	57.2	非鉄金属工業	-12.4	-70.6

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



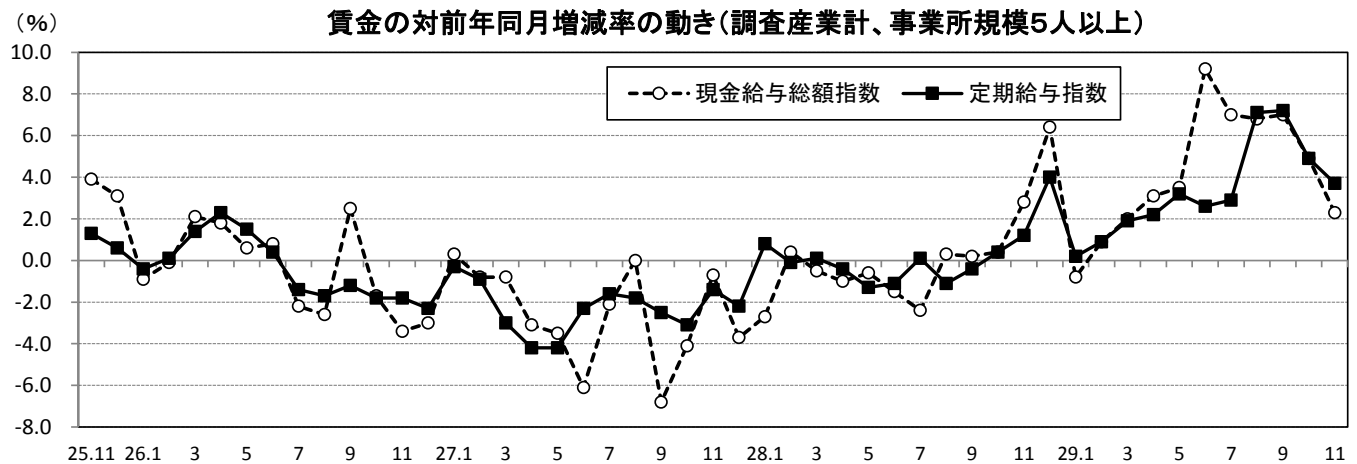
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

平成29年11月の定期給与は228,033円で、定期給与指数（平成27年=100）では105.6となり、前年同月比3.7%増と14カ月連続の増（現金給与総額235,870円、現金給与総額指数93.9、前年同月比2.3%増）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は87.2となった。

総実労働時間は158.6時間で、総実労働時間指数は102.6となり、前年同月比2.2%増と12カ月連続の増となった。このうち、所定外労働時間は13.4時間で、所定外労働時間指数は116.5となり、前年同月比11.1%増と12カ月連続の増となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

賃金及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

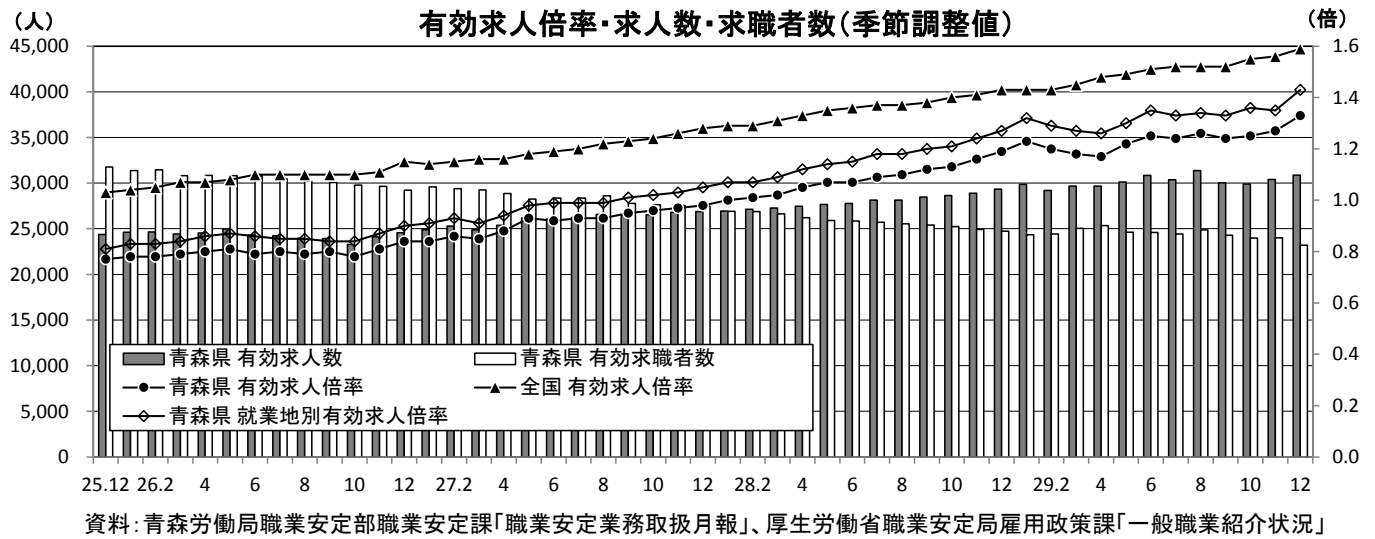
	実 数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	235,870 円	277,885 円	93.9	88.7	2.3 %	0.9 %
定期給与	228,033 円	261,419 円	105.6	100.8	3.7 %	0.4 %
特別給与	7,837 円	16,466 円	—	—	—	7.9 %
総実労働時間	158.6 時間	145.6 時間	102.6	100.8	2.2 %	0.2 %
所定内労働時間	145.2 時間	134.3 時間	101.5	100.6	1.4 %	0.1 %
所定外労働時間	13.4 時間	11.3 時間	116.5	102.7	11.1 %	1.5 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

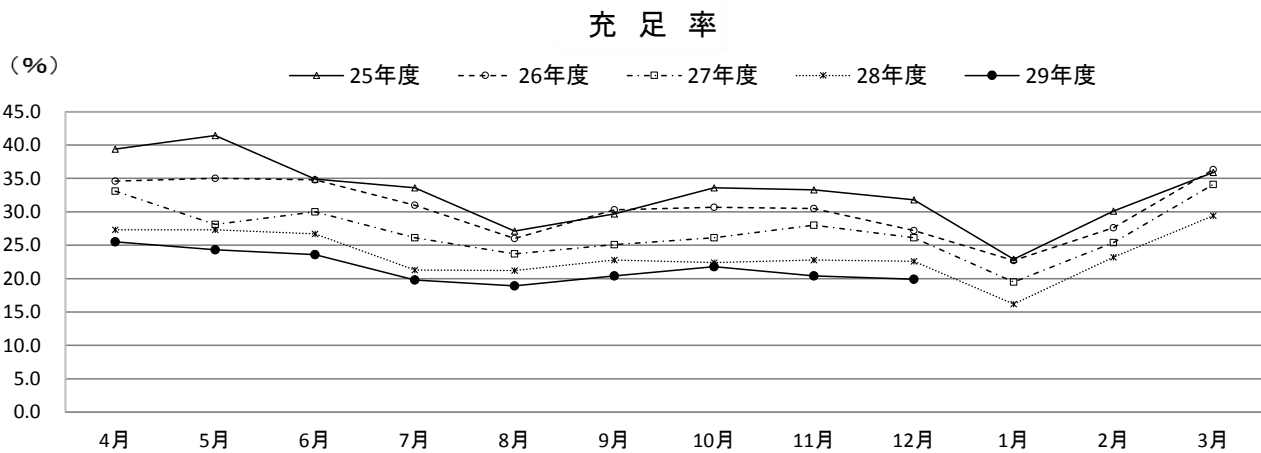
(2-2-2) 有効求人倍率

平成29年12月の有効求人倍率（季節調整値）は1.33倍で、前月を0.06ポイント上回り、過去最高の水準となった。就業地別有効求人倍率は1.43倍で、前月を0.08ポイント上回った。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

平成29年12月の充足率は19.9%で、前年同月と比べ2.7ポイント下回った。



(2-3) 物価

平成29年12月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が101.3となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ1.1%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.5となり、前月と同水準、前年同月と比べ1.3%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.6となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.6%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮野菜など)、光熱・水道(他の光熱など)などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ1.1%の上昇となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道(他の光熱など)、食料(肉類など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

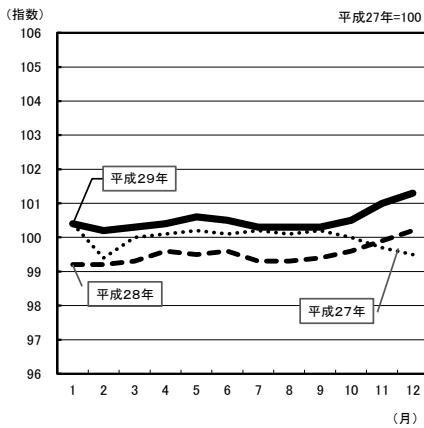


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

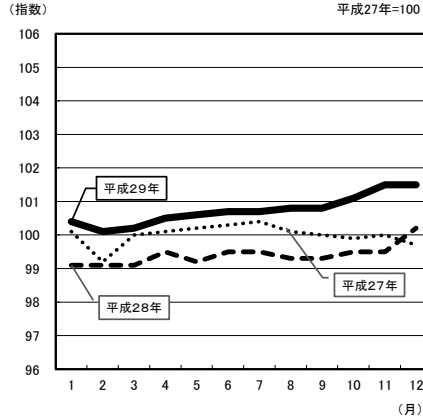
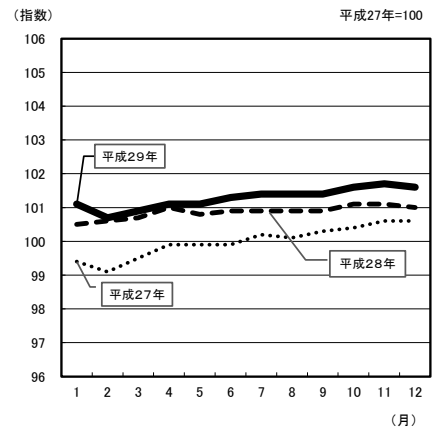


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被及履	服	保	健康	交通・通信	教育	教	養	諸
	合	品	品	料	料	食	居	道	用	履	物	医	療	信	育	育	楽	費
当月指数	101.3	101.5	101.6	100.6	103.6	97.5	99.9	99.9	101.8	101.5	101.2	98.5	102.5	102.4	101.7			
前月比(%)	0.3	0.0	▲0.1	▲0.1	1.0	6.6	0.0	0.7	0.5	▲0.9	▲0.8	0.0	0.0	▲0.3	0.1			
寄与度	—	▲0.01	▲0.08	▲0.07	0.27	0.29	0.00	0.08	0.02	▲0.03	▲0.03	0.00	0.00	▲0.03	0.00			
前年同月比(%)	1.1	1.3	0.6	0.1	1.5	▲2.0	▲0.2	5.2	▲0.5	▲0.6	0.9	0.4	0.5	1.0	0.8			
寄与度	—	1.20	0.47	0.07	0.41	▲0.10	▲0.05	0.55	▲0.02	▲0.02	0.03	0.05	0.01	0.08	0.04			

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

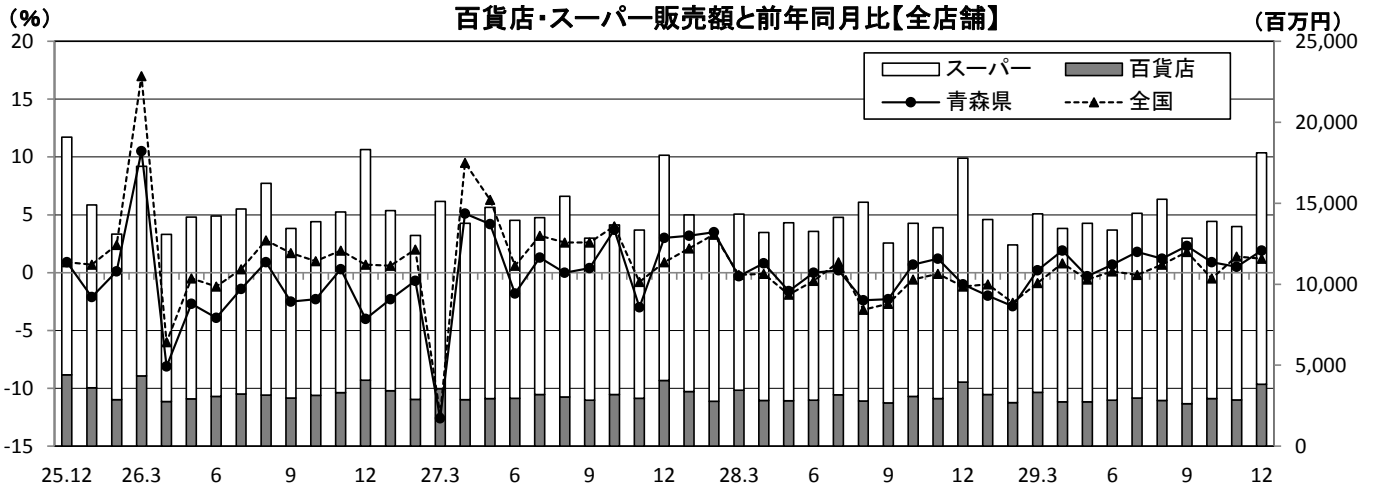
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

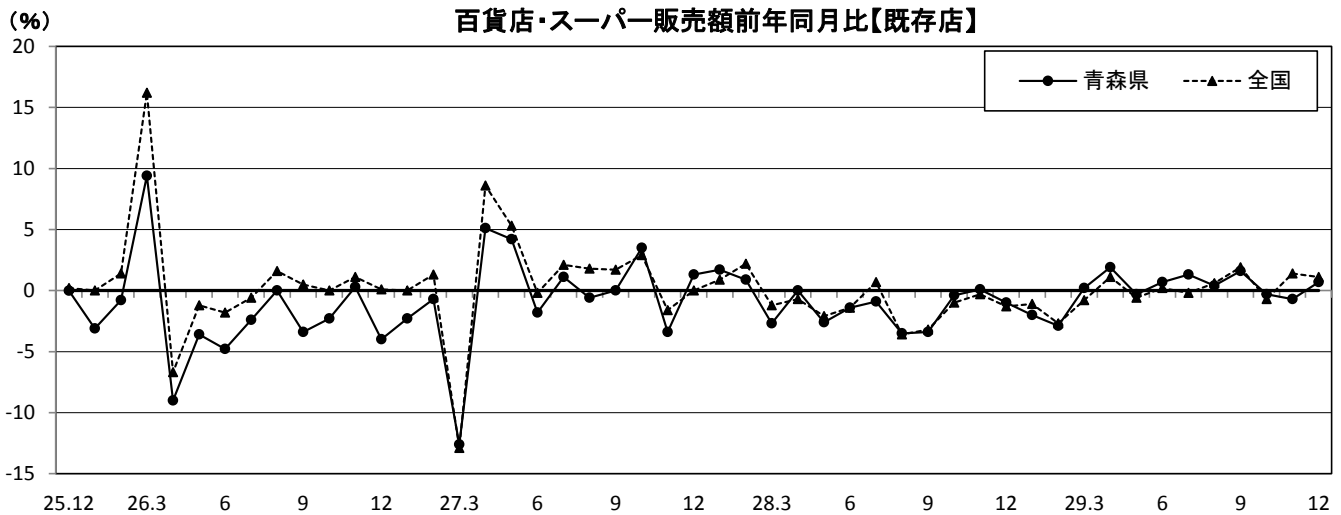
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

平成29年12月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが181億円で前年同月比1.9%増となり、7カ月連続で前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比0.7%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。



資料：東北経済産業局「東北地域百貨店・スーパー販売額動向」、経済産業省「商業動態統計速報」

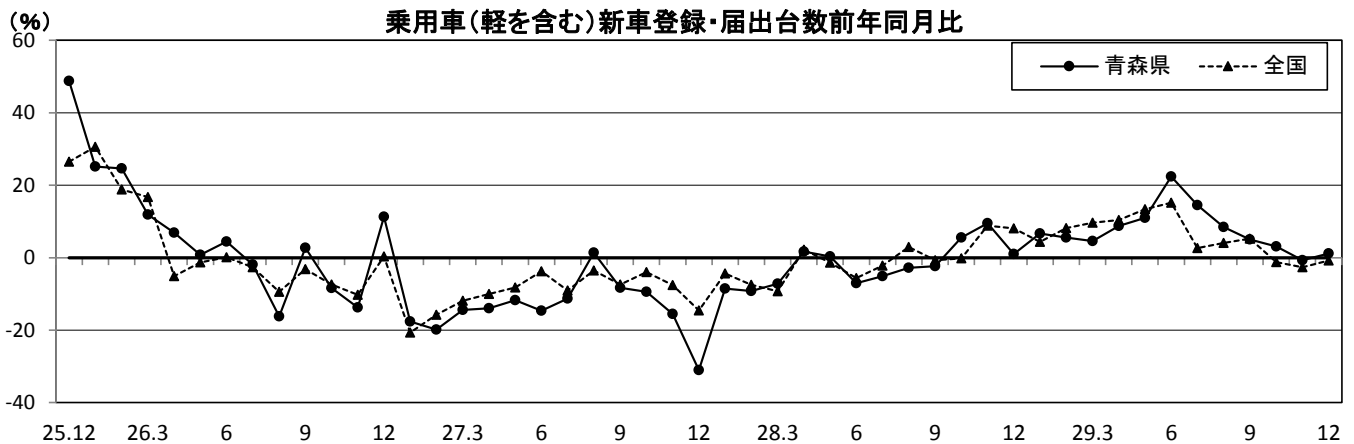


資料：東北経済産業局「東北地域百貨店・スーパー販売額動向」、経済産業省「商業動態統計速報」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。
そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

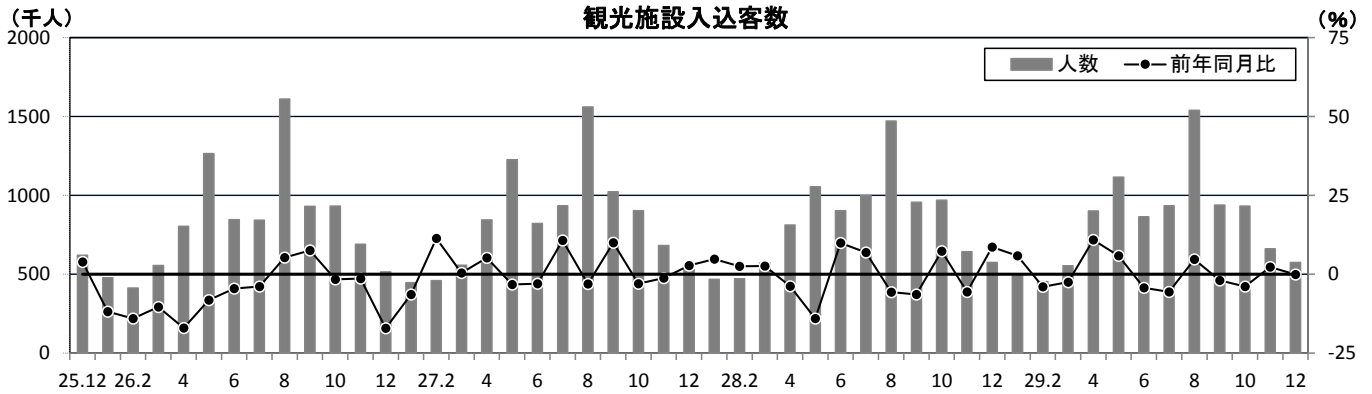
平成29年12月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,805台で、前年同月比1.2%増となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。普通車、小型車が増加したことによる。



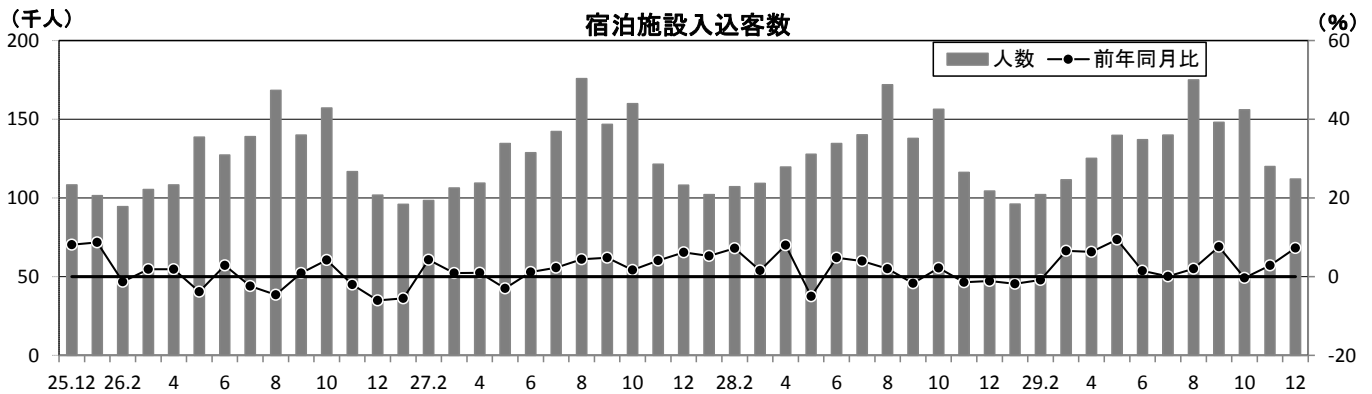
資料：日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

(2-4-3) 観光入込客数

平成29年12月の観光入込客数は、主な観光施設が575千人で前年同月比0.1%減となり、2カ月ぶりに前年同月を下回った。また、主な宿泊施設は112千人で前年同月比7.3%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。観光施設は青森市、五所川原市、八戸市、むつ市等の施設で減少し、宿泊施設は青森市、弘前市、八戸市の施設で増加したことによる。



資料：県観光企画課「月例観光統計」※観光施設34施設（H24年1月～H26年3月は35施設、H26年4月以降は34施設対比）

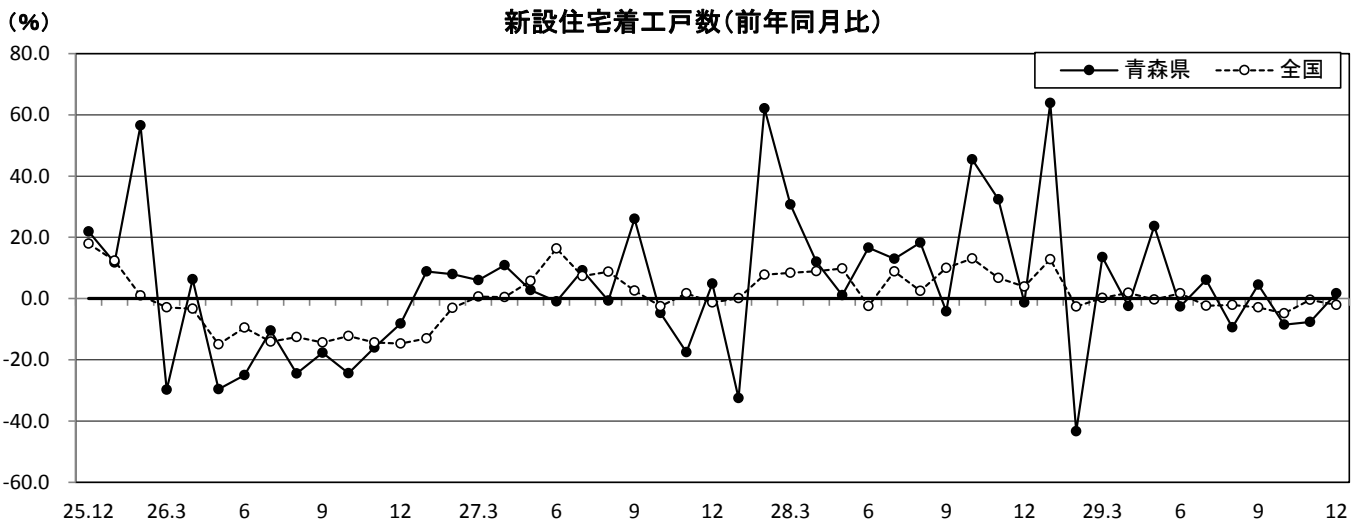


資料：県観光企画課「月例観光統計」※宿泊施設54施設（H24年1～3月は57施設、H24年4～9月は60施設、H24年10～11月は61施設、H24年12月～H26年3月は57施設、H26年4～12月は56施設、H27年1～12月は55施設、H28年1月以降は54施設、H28年7月以降は53施設対比）

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

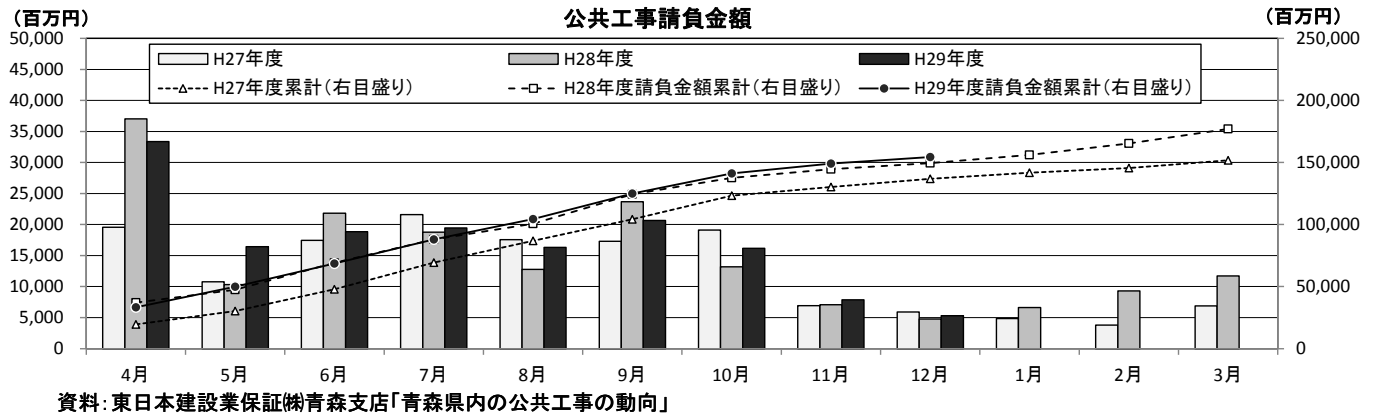
平成29年12月の新設住宅着工戸数は543戸で前年同月比1.7%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。持家、給与住宅が増加したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

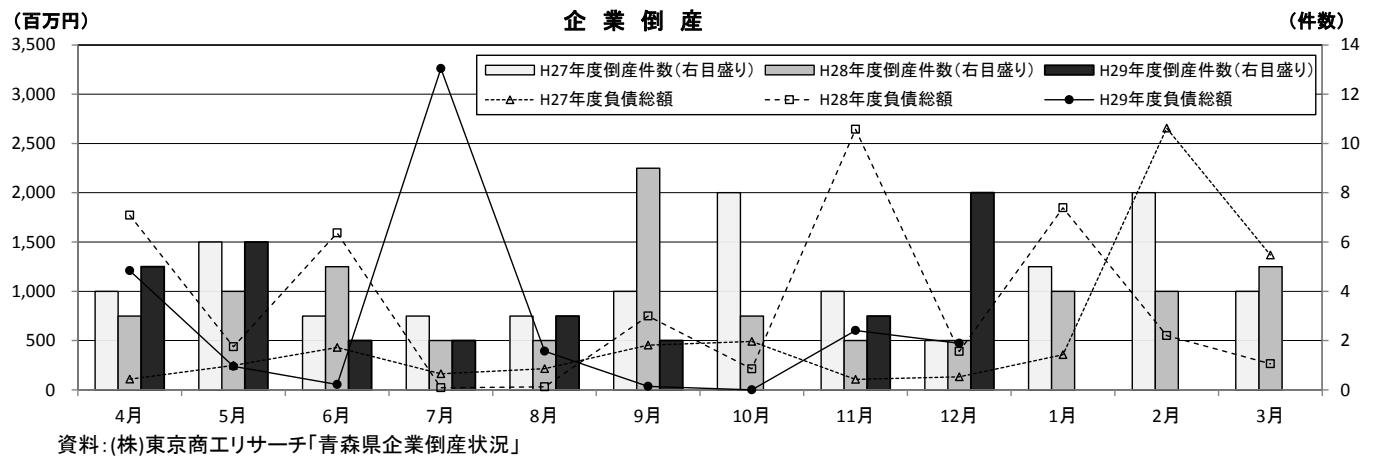
(2-5-2) 公共事業

平成29年12月の公共工事請負金額は53億100万円で前年同月比11.3%増となり、県、市町村の増加により3カ月連続で前年同月を上回った。また、平成29年12月までの累計金額は1,544億2,300万円で前年同期比3.3%増となった。



(2-6) 企業倒産

平成29年12月の企業倒産は、件数は8件で前年同月比300.0%増となった。負債総額は4億7,200万円で前年同月比21.3%増となった。また、平成29年12月までの累計倒産件数は31件で前年同期比3.1%減、負債総額は62億6,400万円で前年同期比20.2%の減となった。



(3) 青森県景気動向指数

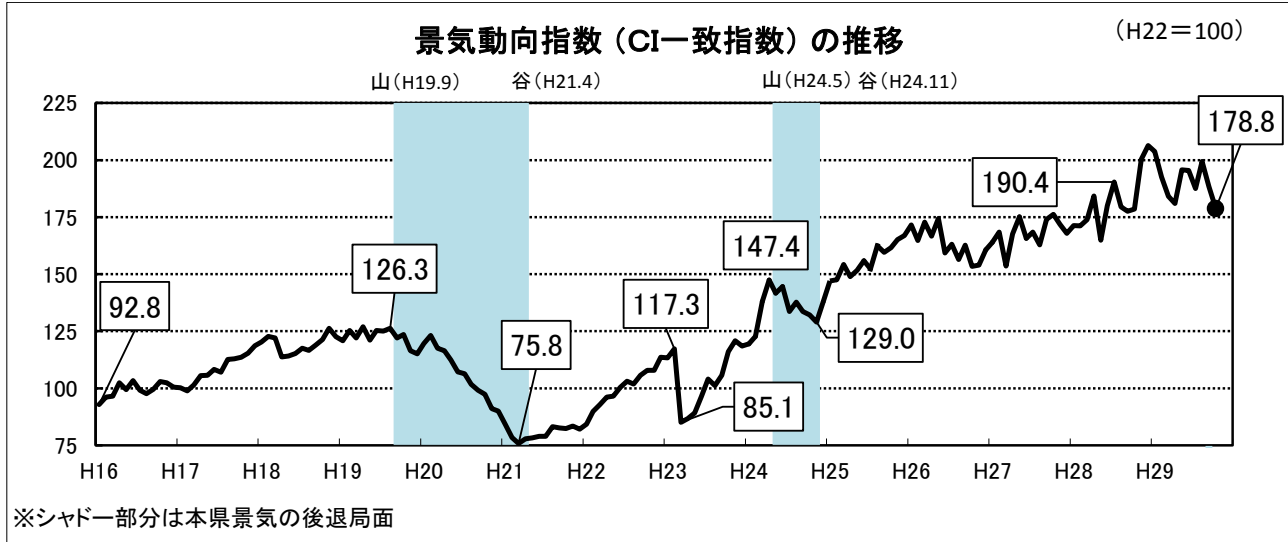
平成29年10月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 142.8、一致指数 178.8、遅行指数 120.6 となった。

先行指数は、前月を 8.1 ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を 9.5 ポイント下回り、2カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 0.6 ポイント上回り、2カ月連続で上昇した。

10月の一致指数は流通・雇用・消費関連の指標がマイナスになったことから下降した。



● 個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
建築着工床面積	1.78	2カ月連続	新規求人倍率（全数）	-7.43	2カ月連続
企業倒産件数	0.98	5カ月連続	日経商品指数（42種）	-1.54	5カ月ぶり
			新設住宅着工床面積	-1.32	2カ月ぶり
			乗用車新車登録届出数	-0.64	4カ月連続
			生産財生産指数	-0.31	3カ月ぶり
			中小企業景況DI	-0.03	3カ月連続
一致系列					
投資財生産指数	0.40	2カ月ぶり	輸入通関実績（八戸港）	-3.94	2カ月ぶり
			所定外労働時間指数（全産業）	-3.17	4カ月ぶり
			百貨店・スーパー販売額（既存店）	-1.30	2カ月ぶり
			鉦工業生産指数	-1.23	2カ月連続
			旅行取扱高	-0.24	2カ月連続
			有効求人倍率（全数）	-0.02	2カ月連続
遅行系列					
公共工事請負金額	1.31	2カ月ぶり	常用雇用指数（全産業）	-0.73	2カ月連続
りんご消費地市場価格	0.90	2カ月連続	家計消費支出（勤労者世帯：実質）	-0.56	2カ月ぶり
			有効求職者数（全数）	-0.29	2カ月ぶり
			県内金融機関貸出残高	-0.15	2カ月連続
			青森市消費者物価指数（総合）	-0.09	3カ月連続

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

先行指数	50.0%	（2カ月連続で50%を上回った後50%となった）
一致指数	35.7%	（2カ月連続で50%を下回った）
遅行指数	71.4%	（2カ月連続で50%を上回った）

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成30年1月期）

現状判断DIは、インバウンド客の増加等により、前期比4.8ポイント増加の51.3となった。

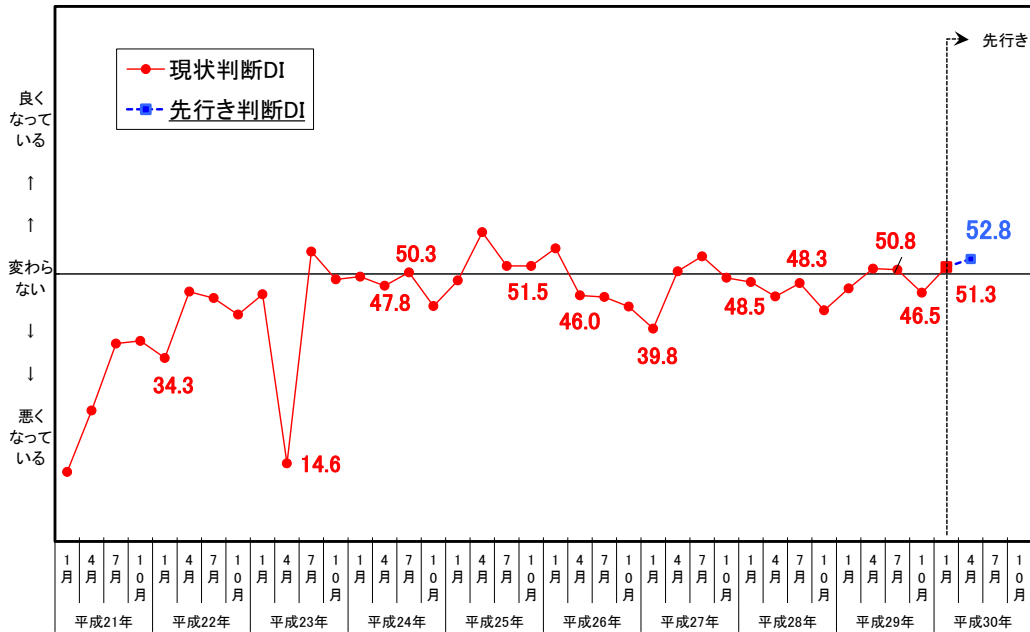
先行き判断DIは、青森市役所駅前庁舎のオープンや賃金上昇への期待等により、現状判断DIと比べて1.5ポイント増加の52.8となった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を2期ぶりで上回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を4期連続で上回った。

（調査期間 平成30年1月4日～1月25日 回答率99%）

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



● 3カ月前と比べた景気現状判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」が1.0ポイント増加、「やや良くなっている」が6.3ポイント増加、「変わらない」が3.5ポイント増加、「やや悪くなっている」が10.8ポイント減少、「悪くなっている」の増減が無かったことにより、全体では4.8ポイント増加の51.3となり、景気の横ばいを示す50を2期ぶりで上回った。</p> <p>判断理由では、インバウンド客の増加、年末年始時期の来街者数増加、工事物件数の増加などのプラス面がある一方で、忘新年会の減少、仕入れ価格の上昇、客購入単価の減少影響などといったマイナス面をあげる声があった。</p>
	<p>地区別では、前期調査と比べて、全ての地区でポイントが上昇し、津軽地区と県南地区では景気の横ばいを示す50を上回った。</p>

● 3カ月後の景気先行き判断

動 向	<p>前期調査と比べると、「良くなる」が増減なし、「やや良くなる」が0.7ポイント減少、「変わらない」が5.5ポイント増加、「やや悪くなる」が4.9ポイント減少、「悪くなる」が増減なしだったことにより、全体では1.0ポイント増加の52.8となり、景気の横ばいを示す50を4期連続で上回った。</p> <p>判断理由では、青森市役所駅前庁舎のオープン、オリンピック・サッカーワールドカップなどの大型イベントや賃金上昇への期待等によるプラス面をあげる声があった一方で、人手不足や人件費高騰等を懸念する声があった。</p>
	<p>地区別では、前期調査と比べて、県南地区では変わらず、その他の3地区ではポイントが増加した。下北地区では景気の横ばいを示す50を下回り、その他の3地区では50を上回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(3)判断理由

○3ヶ月前と比べて景気の現状判断理由

○	少しずつではあるが国外のお客様が増えている。(レストラン=東青)
○	忘新年会や年末年始のイベントがあって来街者や買物客数が増え弘前の中心市街地は盛り上がっていた。(商店街=津軽)
○	人手不足で非正規雇用の労働者が正規雇用にする企業が増えている関係か、買物にゆとり感を少しづつ感じている。(美容院=県南)
○	工事物件数が増加し、受注単価も多少ではあるが増額したように思える。(広告・デザイン=津軽)
□	ガソリンの値上がりにより、お客様の来店頻度が落ちている。全体の売上高は買上点数と客単価でカバー出来ていますが、景気回復としては厳しい状況です。(スーパー=東青)
□	継続的に衣料品の回復が見られるが食料品が不振(百貨店=東青)
□	日本人の旅行客が多少減少、その分外客がカバーしている(観光名所等=津軽)
□	街を見ていても仕事等は何ら変わったところがない。忘新年会がもっとあるかと思いきや、去年より少ないように感じる。(タクシー=県南)
□	人の動きは以前よりあるように感じるが、比較的暖かい冬なので商品の動きは少ないように感じるため。(商店街=県南)
□	最近客数・売り上げに大きな落ち込みがなくなってきました。数年前(消費税8%後) 下降気味だった売上がやっと下げ止まってきたと感じます。(一般小売店=下北)
□	業種別に(特に保育・医療関係) 人手不足は続いている。クリスマスから年末年始のホテル等の需要、買物の人出も多かった感がある。一方事業継承ができずに廃業する店舗も複数見受けられる。(経営コンサルタント=津軽)
□	未曾有の人手不足である。それがために、初任給を含め、人件費が上昇している。その人件費が、ダイレクトに消費拡大に結び付いていないと感じます。(経営コンサルタント=県南)
△	クリスマス・年末年始の買物動向から購入単価がダウンしている。(スーパー=県南)
△	食堂でもあり宴会も承っているのですが、新年会、忘年会の回数が以前より少なくなってきた(またはやらないところが多くなった気がする)(一般飲食店=下北)
△	ガソリンや灯油、野菜など生活必需品が値上がりして、消費が抑えられている。(新聞社求人広告=津軽)
×	物価上昇(石油・電気など) 消費悪化(中心街、歓楽街)(ガソリンスタンド=津軽)

○3ヶ月後の景気の先行き判断理由

○	駅前庁舎オープンで中心市街地活性化への期待が高い。(百貨店=東青)
○	最低賃金の上昇や能力のある労働者を繋ぎとめて業績を維持するために雇用状況が好転してくると思っています。(美容院=県南)
○	サッカーWC等の世界的イベントがあるため映像商品に期待できる。(家電量販店=県南)
○	政府が推し進める所得拡大税制の拡充と人手不足で、さらに賃金が増えそうです。給与所得者の所得拡大が、必ずや景気拡大に結び付くと信じたい。(経営コンサルタント=県南)
○	最近では企業に人手不足感が出ているようで、人件費を上げてでも人材を確保したいとの話を聞くようになった。就業者の所得増を期待でき、景気にプラスに影響すると思う。(人材派遣=津軽)
□	地元客の動きが良くなっている一方で県外(特に首都圏) 客は減少しており、今後の動きが予想しづらい。(観光型ホテル・旅館=東青)
□	人口減少による慢性的な人手不足が小規模な企業から悪影響が波及しそう。(ガソリンスタンド=東青)
□	北朝鮮を気にかけている。トランプ大統領、中国、ロシアなど国外の影響(観光名所等=津軽)
□	地方では株高の恩恵もなく、相変わらず高額品や衣料品の動きは鈍く、不要不急の消費を控え購買行動が慎重になっており、景気が回復しているという実感がないため(百貨店=県南)
□	人口が増えていけば期待が持てるが、進学・就職などで人が出ていくことが不安です。(レストラン=下北)
□	周りの店の話でも暇で大変という話ばかりですし、問屋さんも注文の量が減る一方とのことで、下北はこれといったものもないしもっと大変になるのでは。(一般飲食店=下北)
□	最低賃金が2年連続で大幅に増えてます。我々は苦しいですが、少しでも消費が増えることに期待します。(一般小売店=下北)
□	建設業は国の政策効果が見られるがその他の業種での回復は今一つ盛り上がらない。(経営コンサルタント=東青)
△	仕入価格の上昇、人材不足解消のための人件費の高騰。(都市型ホテル=東青)
△	イルミネーションや雪灯籠祭りなどのイベントにより来街者は増えても、買物客数や買物単価はあまり期待できない。(商店街=津軽)
×	異業種の方たちの集まりでは、必ず「人が足りない」から始まります。(ガソリンスタンド=津軽)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」